

史跡 和田岡古墳群 吉岡大塚古墳整備工事について

令和 6 年 7 月 7 日
掛川市文化・スポーツ振興課
文化財係 井村 広巳

1 はじめに

掛川市は、平成 29 年度(2017)から史跡和田岡古墳群の一つである吉岡大塚古墳の整備工事に着手し、令和 5 年(2023)11 月に工事が完成しました。史跡指定から整備完成に至るまでの経緯や整備の内容について、紹介します。

2 和田岡古墳群の概要

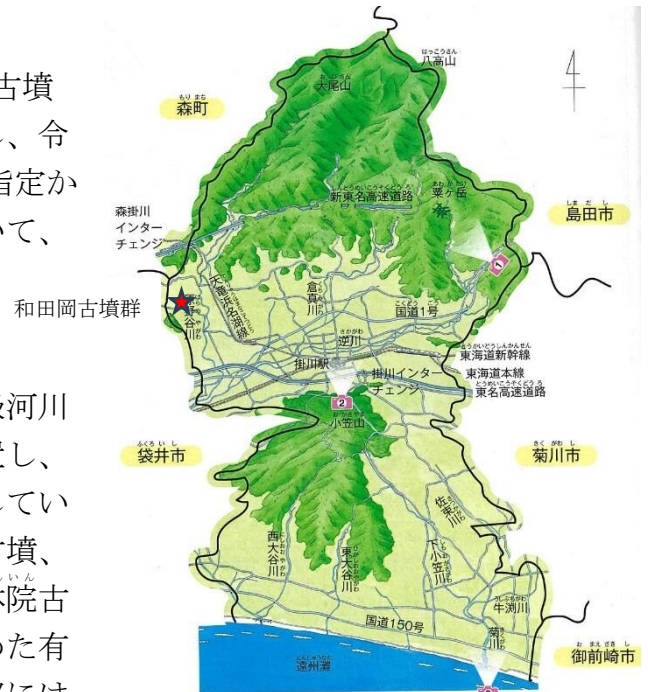
和田岡古墳群は、掛川市の北西部を流れる二級河川原野谷川が中流域に形成した和田岡原段丘に位置し、段丘の東西約 1 km、南北約 2.5 km の範囲に点在しています。4 基の前方後円墳（各和金塚古墳、瓢塚古墳、吉岡大塚古墳、行人塚古墳）と 1 基の円墳（春林院古墳）に埋葬された人々は、原野谷川中流域を治めた有力者と推定されています。その他、段丘の縁辺部には直径 10～20 m の円墳や方墳、墳丘をもたない土壌墓など約 40 基の埋葬施設が確認されています。

古墳それぞれの形状や規模、埋葬施設、出土遺物などから築造年代が推定でき、古墳群の変遷（築造順位）を追えること、また東遠江において一大古墳群を形成した首長と畿内政権との係わりが認められる貴重な古墳群として、主要な 5 基の古墳が平成 8 年(1996)3 月に国の史跡に指定されました。

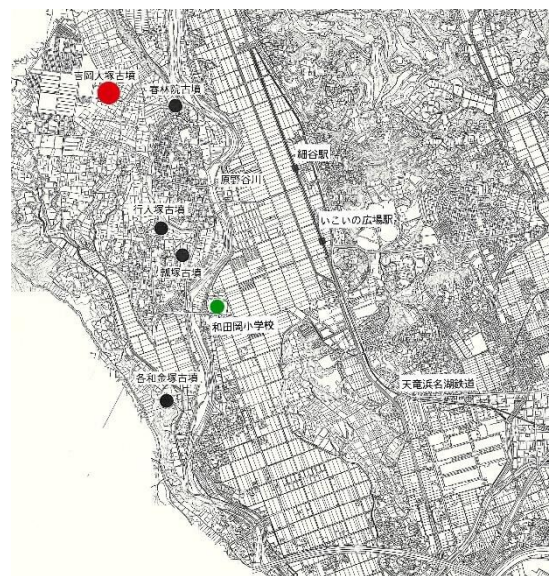
和田岡古墳群の存在は古くから認識されており、1930 年に刊行された『静岡縣史』第 1 巻の中で、吉岡大塚古墳、各和金塚古墳、瓢塚古墳について詳しく記述されています。和田岡地区は掛川市内でもお茶の生産が盛んな地域であり、古墳の周囲には広大な茶畑が広がっています。緑豊かな環境の中、地元住民の理解もあり、貴重な古墳群として今日まで良好な形で保存されてきました。

3 整備に至る経緯

和田岡古墳群は、昭和 50 年代から国の史跡に向けて確認調査が行われてきました。史跡指定後、和田岡古墳群をどのように保護・活用していくかを検討するため、平成 9 年(1997)に『和田岡古墳群整備基本構想』を策定し、これを具体化するため平成 16 年(2004)から 2 か年かけ



第 1 図 和田岡古墳群位置図 1



第 2 図 和田岡古墳群位置図 2

て学識者、地元住民で、『和田岡古墳群考古学公園整備基本計画』を策定しました。この計画の中で、前方後円墳の形が良好に残り、県道掛川・山梨線に近接する古墳群のランドマークとして吉岡大塚古墳を最初に整備することが位置づけられました。そして完全復元の整備を目指すことになりました。

4 吉岡大塚古墳の概要

復元整備のための基礎資料を得るため、平成 19 年度(2007)から 26 年度(2013)まで発掘調査を行いました。その結果、5 世紀の中頃(1,550 年前)に築かれ、全長 54.6m、後円部直径 41.3m、後円部の高さ 7m であることがわかりました。形状は、前方部が短い帆立貝形であることが特徴です。古墳群中 3 番目の大きさです。

古墳の周囲には溝が巡っており、後円部は二段に築かれ、段の間には幅 1.3m の平らな部分(テラス)が巡っていました。墳丘斜面には葺石が葺かれ、墳頂部とテラスには、円筒埴輪や朝顔形埴輪が並べられていたことがわかりました。

葺石を石材鑑定した結果、吉岡大塚古墳が立地する河岸段丘を構成する地山の礫ではなく、原野谷川の河床礫を使用していることがわかりました。葺石は砂岩がほとんどを占め、形状は球状、円盤状の丸みを帯びているものを選別し使用していました。

埋葬施設については、これまでの調査では確認されていません。そこで平成 21 年度(2009)に後円部墳頂において地中レーダー探査を行いました。その結果、地表下約 0.5m の深さに木棺直葬、また地表下約 1.5m の深さに掘方を伴う木棺直葬或いは粘土槨の存在が想定されました。

一般的に円筒埴輪と朝顔形埴輪は、外面にハケ調整が施されますが、吉岡大塚古墳と各和金塚古墳の埴輪はナデ調整で仕上げられているのが特徴です。

5 整備の内容

整備工事は、平成 27 年度(2015)に基本設計、平成 28 年度(2016)に実施設計を行い、平成 29 年度(2017)から整備工事に着手しました。当初は完全復元を目指していましたが、葺石と埴輪の残存状況が良好ではなかったことから、部分復元に変更しました。南方向から和田岡原の段丘を登っていくと、住宅と茶畑の間に吉岡大塚古墳の姿を望むことができます。その形状を良好に



第 3 図 樹木伐採前の吉岡大塚古墳(南から)



第 4 図 樹木伐採後の吉岡大塚古墳(真上から)



第 5 図 後円部上段葺石検出状況



第 6 図 人力による墳丘の表土剥ぎ作業

見ることができる後円部の南東部分約 1/3 に葺石、埴輪を設置し、古墳築造時の姿に復元しました。そして後円部の残り南側と前方部、南側の周溝は、古墳築造時の形に盛土で復元し、植生により整備しました。墳丘見学のため、東西方向に階段を設け、それを境に墳丘北側は、現状保全を図るため保護盛土を行い、植生で整備しています。墳丘北側と南側を比較して見学していただくことで、古墳築造時から現在に至る時間の経過を感じることができます。

古墳の西側をメインエントランスとし、休憩施設、和田岡古墳群と吉岡大塚古墳の解説板を設置しました。古墳の周囲を散策するための周遊路や周囲の景観とともに古墳を眺望できるアプローチ広場を設け、解説板を設置しています。また見学者のための便益施設であるトイレ、ベンチを整備しました。

葺石は、発掘調査で確認した葺石の石材鑑定を行った結果、原野谷川の石が使用されていることがわかりました。そこで整備で復元する葺石も、築造時と同じ原野谷川の石を使用し、当時の姿に近づける復元を行いました。平成 30 年度(2018)は、この石の採取・運搬を、令和元年度(2019)にはこの石を利用した葺石復元作業を地元の和田岡小学校、原谷小学校の 5、6 年生が行いました。

設置した復元埴輪は、円筒埴輪と朝顔形埴輪があり、円筒埴輪は令和 3 年度(2021)に市民が製作し、野焼きまで行いました。令和 5 年 11 月に行った竣工式に参加いただき、製作した埴輪を整備が完成した古墳に設置する作業を行いました。

6 完成後

令和 3 年 5 月に設立した地元ボランティア団体「古墳スマイル隊」や地元住民と共に、多くの方々の学び、憩いの場として P R していきます。



第 11 図 後円部に復元された葺石・埴輪



第 7 図 クレーンを使用した保護盛土作業



第 8 図 ハニカムフレームを設置



第 9 図 葺石復元作業



第 10 図 市民による復元埴輪製作



第 12 図 整備された吉岡大塚古墳(南西から)